

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問調査)

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 27人 | 算数 | 27人 | 理科 | 27人 |
| 第5学年 | 国語 | 26人 | 算数 | 26人 | 理科 | 26人 |

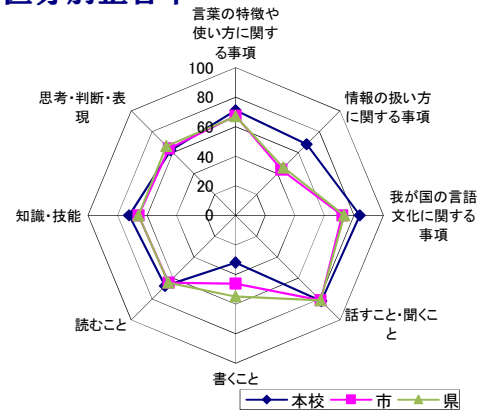
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 71.1 | 67.4 | 67.1 |
|     | 情報の扱いに関する事項    | 68.0 | 43.8 | 45.7 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項 | 84.0 | 72.1 | 73.4 |
|     | 話すこと・聞くこと      | 82.0 | 81.2 | 81.2 |
|     | 書くこと           | 32.0 | 46.2 | 54.9 |
|     | 読むこと           | 67.5 | 64.3 | 64.5 |
| 観点  | 知識・技能          | 72.0 | 65.7 | 65.7 |
|     | 思考・判断・表現       | 62.3 | 64.0 | 66.3 |



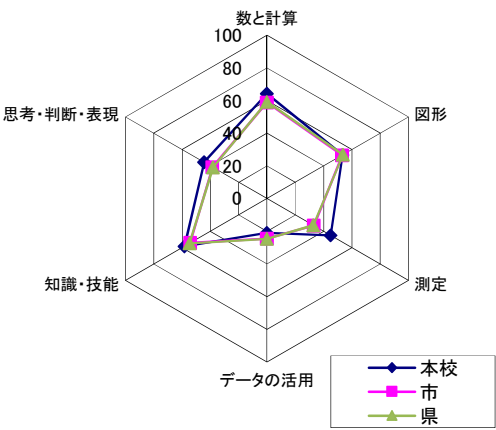
★指導の工夫と改善

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | ○漢字を正しく読んだり、書いたりする設問のほとんどでは、市の平均正答率を上回っており、力が身に付いてきたと考えられる。また、対義語を問う設問でも、正答率が92%で、基礎的な力が身に付いてきていると考えられる。<br>●ローマ字で表記されたものを正しく読む設問では、48%の正答率で、正しく読む力を定着することが課題である。                                      | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・今後も引き続き、漢字練習の課題や小テストなどを計画的に行ったり、間違った漢字の訂正を確実にしたりすることで、漢字の読み書きの力を定着できるようにする。<br>・ローマ字で表記されているものを紹介する機会を設けることで、ローマ字で表記されている言葉に着目すると同時に、正しく読むことができるようにする。                                         |
| 情報の扱いに関する事項    | ○例文を読み、国語辞典に記載されている複数の意味から適する意味を選ぶ設問は、正答率68%と市の平均を24.2ポイント上回った。文章を読み、その言葉が示している意味を読み取る力が付いてきていると考えられる。                                                                                                 | ・今後も継続して、国語辞典を使用し、文章に合う正しい意味を選択できるように、言葉の意味調べの課題に取り組むようにしていく。<br>・一人一台端末を活用し、意味調べの他に言葉の正しい表記の確認などに使用していく。                                                                                                                   |
| 我が国の言語文化に関する事項 | ○漢字のへんに関する設問は、84%で市と比べると正答率が10ポイント以上高く、漢字の部首についての知識を習得してきていると考えられる。                                                                                                                                    | ・漢字ドリルやデジタル教科書で新出漢字の学習をするとき、今後も継続して漢字の部首や成り立ちなども確認する時間を設ける。また、既習の漢字の部首についても繰り返し復習することで、定着を図る。                                                                                                                               |
| 話すこと・聞くこと      | ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問では88.0%、自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では100%と市の正答率と比べて高く、話し手の中心内容を聞き取ったり、自分の考えを理由を付けてまとめたりする力が定着していると思われる。<br>●話し合いの発言を基に、意見をまとめる設問では、正答率64%と市と比べて13.4ポイント低く、話を聞きながら意見をまとめ記述する力の向上が今後の課題である。 | ・話し合い活動等で発表者が話した内容をクラス全体、または、小グループ等で確認する時間を設け、話し手が伝えたいことを理解しまとめる力を伸ばしていく。<br>・話し手が伝えたいことの中心を捉えるために、話し合いの際にはメモを取るようしたり、互いの考えが正しく伝わっているかを確認したりする。また、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるように指導するとともに、話し方の工夫を捉えながら継続的に伝え合う活動を取り入れ、言語活動の充実を図る。 |
| 書くこと           | ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く、指定された長さで文章を書くなど、文章内容を理解し、記述で答える設問では、平均正答率20%と市と比べても低い。指定された方法で文章を書く、自分の考えとその理由を明確にして書く力の向上と、無回答が多かったので、時間の配分など見直しをもって問題に取り組むことが今後の課題である。                                     | ・作文や感想文の学習では、書きたい事柄が中心になるよう、文章全体の段落攻勢を考えるように指導した上で、文字数等を意識し条件に合う書き方ができるように繰り返し練習する。<br>・文章問題に取り組むときに、問題数や内容などから時間配分など見直しをもって問題に取り組むことができるようにする。                                                                             |
| 読むこと           | ○場面の様子について叙述を基に捉える設問では、市と比べて高く、文章から気持ちを読み取る力が身に付いてきている。<br>●文章の内容を説明した文を選ぶ設問では、平均正答率が市より3.1ポイント、文章の内容を捉え、要約する力の育成が今後の課題である。                                                                            | ・物語文の学習では話し合い活動を取り入れ、叙述から登場人物や場面の状況から分かったことや、物語文を読んで感じたことを児童同士で共有できるようにしていく。<br>・説明文の学習では、叙述や接続語を基に段落の内容を捉えたり、中心となる語や文章を見つけて要約したりする活動を設けることで力を伸ばしていく。                                                                       |

宇都宮市立中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 64.2 | 58.9 | 59.2 |
|     | 図形       | 53.3 | 53.0 | 53.7 |
|     | 測定       | 45.0 | 33.1 | 32.6 |
|     | データの活用   | 21.0 | 24.4 | 24.6 |
| 観点  | 知識・技能    | 58.3 | 54.3 | 54.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 44.5 | 38.5 | 38.3 |



★指導の工夫と改善

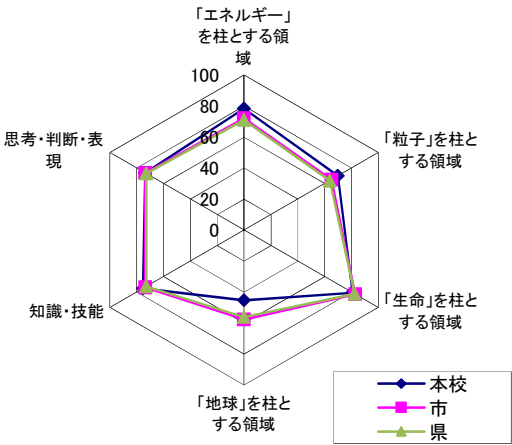
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                                                            |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | ○平均正答率は、市を5.3ポイント上回った。特に、かけ算やわり算の計算、数直線の読み取りの問題で、高い正答率がみられ、基礎的な学習については定着化が図られている。<br>●式の意味を正しくとらえることはできるが、それを自分の言葉で説明することを苦手としている児童が多い。                 | ・習熟度別学習やTTを生かして、個に応じた指導の充実を図る。<br>・自力解決だけでなく、話し合い活動を取り入れるなど、自分の考えを言葉で伝える機会を設け、自分の言葉で説明する力や表現力の向上に努めるとともに、友達との学び合いを通して、自分の考えを広げ深めることができるよう支援する。                      |
| 図形     | ○円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、円の性質は理解しているため、それを活用した作図の正答率が市を13.1ポイント上回った。<br>●二等辺三角形の性質を利用した問題では、9.7ポイント、球の性質を利用する問題では、2.6ポイントと市の平均を下回った。性質を使って考えることに課題が見られる。 | ・朝の学習や家庭学習の時間の中で、繰り返し類題を解くことで、性質の活用のしかたを身に付けさせる。<br>・球や立体などの実物を用意し、操作する活動を取り入れることで、経験して学ぶことができるよう支援する。                                                              |
| 測定     | ●時刻や時間の意味は理解しているが、前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題では、平均正答率が36%と低くなっている。                                                                                        | ・日常生活の中で、時計を見て計画を立てる活動を取り入れたり、実際に重さを量る際に、予想を立ててから測定を行うようにしたりし、実体験を積み重ねて学べるような活動を工夫する。                                                                               |
| データの活用 | ●棒グラフの読み取りに課題が見られるため、平均正答率は、市の平均を3.2ポイント下回った。特に、棒グラフからわかることを選んで答える問題では、平均正答率が12%と低くっており、2つの棒グラフの1目盛りの大きさの違いなど、様々な情報を正確に読み取る課題が見られる。                     | ・算数だけでなく、理科や社会などでも、棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを言葉に表す学習を意図的に取り入れることで、基礎的な学力を生かして活用する力の定着を図る。<br>・対話的な活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力の定着を図る。 |
|        |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                     |

宇都宮市立中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 78.4 | 72.1 | 71.0 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 70.0 | 65.2 | 63.9 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 80.9 | 82.8 | 82.4 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 45.3 | 57.7 | 56.2 |
| 観点  | 知識・技能          | 75.3 | 73.8 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現       | 73.7 | 73.7 | 72.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                    | 今後の指導の改善                                                                                                                                                           |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | ○エネルギー分野での正答率は市の平均をやや上回っており、魚を磁石で持ち上げるために魚に付けるものを選ぶ問題では、正答率は100%であった。<br>●車が動くと考えられる距離を選ぶ問題については、正答率が市の平均より4.9ポイント下回っており、問題文の読み取りや、分かっていることがらの推測に課題が見られる。 | ・実験結果などを分析・考察する場面では、文章や図で表す学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。                                                                                                   |
| 「粒子」を柱とする領域    | ○実験の結果について正しいものを選ぶ問題では、正答率が市の平均より7.9ポイント上回っている。<br>●体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題では、市の平均よりも1.7ポイント上回っているが、平均正答率が44%と低くなっている。                                 | ・自主学習や家庭学習を活用して知識の応用力の向上を図る。<br>・実験結果から、身の回りの現象と関連付けて考えられるよう、一人一人が実際に観察・実験をする活動を十分に確保し、体験的な学習をできるようにする。<br>・実験をする上で、条件をそろえるものや変えるものについて確認し、何を比較するのか考えさせながら授業を展開する。 |
| 「生命」を柱とする領域    | ○モンシロチョウの足がついている部分を答える問題では市の平均を8.1ポイント上回っている。昆虫の体のつくりについて知識の定着が見られた。<br>●記録カードを比べてわかることを選ぶ問題では市の平均から17.9ポイント下回っており、記録から、差異点や共通点を見いだすことが苦手と考えられる。          | ・実験や観察の際は、観点をおさえた上で共通点や差異点を比較し、自分の言葉で表現できるように指導する。<br>・身近な自然事象への関心を高めていけるよう、継続的な観察を行い自分の目で確かめさせる経験を積ませ、実感を伴った理解を図る指導をしていく。                                         |
| 「地球」を柱とする領域    | ●どの設問も市の平均を下回った。方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題では、正答率が15.3ポイント下回っており、実験器具の正しい使い方に課題が見られる。                                                                                | ・実験器具を使って観察するときは、名前や使い方を丁寧に指導し、全員が扱えるようにする。                                                                                                                        |

## 宇都宮市立中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は70.3ポイントで市の平均を17.7ポイント上回った。また、「人と話すことは楽しい」の肯定的回答が96.3ポイントと高い水準にある。自分の考えや意見をたくさん交流しながら話し合いを行える授業づくりをしていきたい。そして、互いの学びを深めていけるようにしたい。

○1か月に5冊以上本を読むと答えた児童が66.6%で、市を15.3ポイント上回った。決められた時間に図書室を利用や、読み聞かせ、朝の読書、家読を進めてきた成果と考えられる。各教科の平均正答率を見ても、たくさん読書をしている児童ほど高い結果となってることから、今後も様々な取り組みを通して、読書に親しめるような指導をしていきたい。

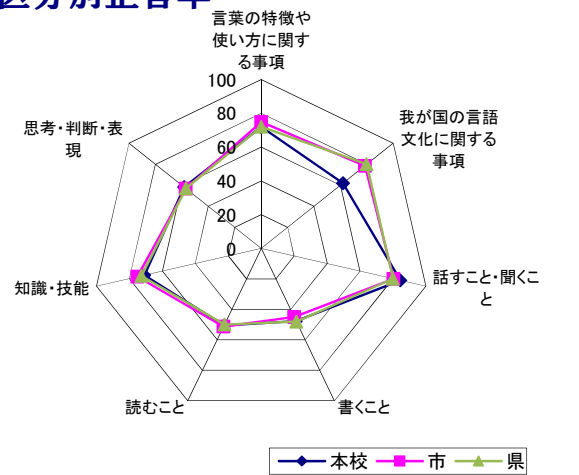
●それぞれの肯定的回答が「学校の復習をしている」で8.2ポイント、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」が23.3ポイント市を下回っている。しかし、「学校の復習をしている」と「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」児童ほど、各教科の平均正答率が高いという結果から、復習を中心とした宿題や家庭学習を進めさせることで、学力の定着を図っていく。

●「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の肯定的回答が市と同程度だが、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答は、市を12.5ポイント下回っている。学びに主体的に取り組めるように、日ごろから興味関心を引く授業展開や声掛けをしていく。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 71.9 | 74.8 | 72.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 61.9 | 78.6 | 79.9 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 84.5 | 80.4 | 80.0 |
|     | 書くこと             | 47.6 | 45.1 | 48.0 |
|     | 読むこと             | 50.6 | 51.3 | 50.0 |
| 観点  | 知識・技能            | 71.0 | 75.2 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現         | 58.3 | 57.0 | 57.0 |



★指導の工夫と改善

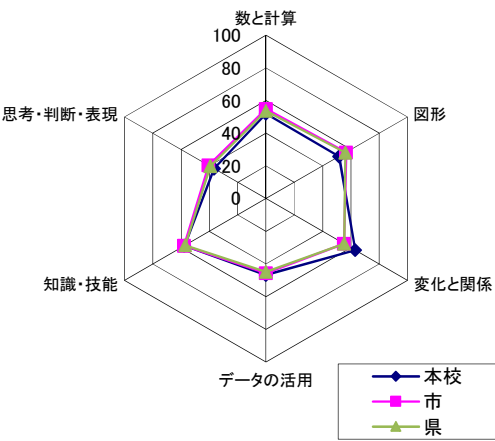
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                 |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | ○漢字を読む設問では、正答率が90%以上で漢字を正しく読む力が身に付いてきたと思われる。<br>●漢字の書き取りでは、正答率が38.1%の設問があり、市の正答率を21ポイント下回っており、無回答も見られる。正しく漢字を書く力に課題が見られる。                                                                              | ・引き続き、AI型ドリルやデジタル教科書の教材コンテンツを利用し、漢字の読み方や書き順などを主体的に確認することができるようにする。<br>・朝の学習や授業、家庭学習で継続的に漢字を書く機会(小テストなど)を設定していく。          |
| 情報の扱い方にに関する事項    |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                          |
| 我が国の言語文化に関する事項   | ●慣用句の使い方にに関する設問では、正答率が61.9%で県の正答率を18ポイント下回っており、慣用句の意味を正しく理解する力に課題がある。                                                                                                                                  | ・学校図書やインターネットを活用し、慣用句に触れる機会を継続的に設定する。また、普段から教師が意図的に慣用句を使うなど、慣用句をはじめとする言語文化に興味関心をもつことができるようにする。                           |
| 話すこと・聞くこと        | ○話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ設問では、正答率が100%で市の正答率を11.9ポイント上回った。話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができていると思われる。<br>●話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問では、正答率が81%で市の正答率を4.2ポイント下回った。話し手が伝えたい中心事柄を捉える力に課題がある。               | ・日頃から小グループでの話し合い活動を継続して行い、互いに意見を聞き合う活動を通して、自分と友達の意見の共通点と相違点に着目したり、話し手が伝えたいことの中心を捉えたりすることで、意見をまとめる力の向上を図る。                |
| 書くこと             | ○みんなが生活目標を達成するためにどうすればよいかについての考えを2つ目の段落に書く設問では、正答率が52.4%で市の正答率を9.7ポイント上回った。事実と自分の考えを書くことができていると思われる。<br>●あいさつについてのアンケート結果を読み、2段落構成で文章を書く設問では、正答率が38.1%で市の正答率を2.9ポイント下回った。段落の役割について理解に課題がある。            | ・文字数や文章構成など、指定された条件で文章を書く活動を国語だけではなく、様々な学習場面で継続して重ねることで、内容のまとまりを捉えながら文章を構成することができるようにする。また、個別指導を十分に行うことで、書く力の向上を図る。      |
| 読むこと             | ○登場人物の性格を説明した文として、適するものを選ぶ設問では、正答率が66.7%で市の正答率を11.4ポイント上回った。登場人物の性格について、具体的に想像する力が身に付いていると思われる。<br>●登場人物の気持ちの変化について説明した文の空欄に適する言葉を書く設問では、正答率が23.8%で市の正答率を12.4ポイント下回った。登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像する力に課題がある。 | ・朝の読書の時間や家読など、物語文や説明文を含む本を読む時間を確保するなど、本に触れる機会を設定していく。<br>・物語文を読む際、文章の叙述をより意識させることで、大まかな内容把握だけにとどまらず、正確に読み取るための読解力の育成を図る。 |

宇都宮市立中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 52.0 | 54.9 | 53.7 |
|     | 図形       | 51.6 | 56.6 | 56.1 |
|     | 変化と関係    | 63.1 | 55.1 | 55.2 |
|     | データの活用   | 46.7 | 45.5 | 44.8 |
| 観点  | 知識・技能    | 57.6 | 57.8 | 57.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 36.7 | 40.6 | 39.5 |



★指導の工夫と改善

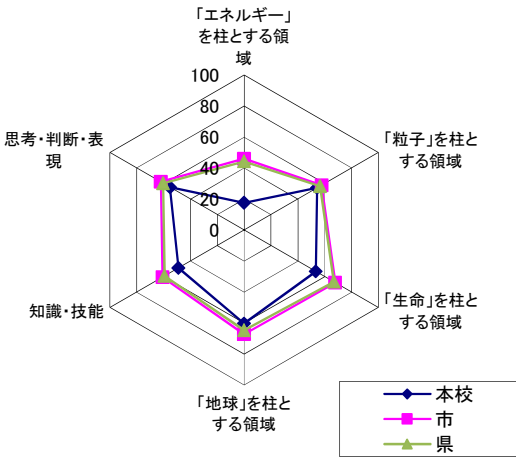
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                    | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | ○大きな数の表し方の問題では、3.3ポイント。分数の表し方の問題は、6ポイントと市の平均を上回った。数の概念について理解していることがわかる。<br>●小数第一位×整数の計算をする問題では、市の平均を1.6ポイント、小数第一位÷整数の計算する問題では、市の平均を19.8ポイントとどちらも下回った。小数の計算に課題が見られる。<br>●除法の性質を利用した計算の工夫を説明する問題では、市の平均を1.2ポイント下回っており、計算の工夫を説明する問題に課題が見られる。 | ・習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。<br>・宿題や小テストなどで繰り返し問題に取り組み、基礎・基本的な計算力の向上に努める。<br>・自分の考えをノートにまとめたり、友達の意見を取り入れたりするなどの学習を意図的に設け、自分の言葉で説明する力の向上を図る。                                                                                                               |
| 図形     | ○直方体の面に垂直な辺をすべて答える問題では、76.2%と市や県の平均を15ポイント以上上回った。立体の辺と面の位置関係を理解していることがわかる。<br>●平行四辺形の作図や180度より大きい角度を求める問題は、市の平均を下回っており課題が見られる。                                                                                                            | ・図形の特徴や性質、きまりなどの既習事項を確認して、基礎的な問題に取り組みさせることで基礎・基本の定着を図る。<br>・三角定規や分度器などの使い方について、実物を活用しながら様々な問題に取り組みさせるなど、継続的に指導していくことで定着を図る。                                                                                                                              |
| 変化と関係  | ○平均正答率は、63.1%と市・県の平均を大きく上回った。表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では、85.7%と市や県の平均正答率を約6ポイント上回っている。<br>●割合のしくみについては理解しているが、割合を使った比べ方について、差を用いる場面か割合を用いる場面か選べず、既習事項の活用に課題が見られる。                                                                   | ・割合を示す表現の中から、基準量や比較量を明確に捉えさせ、筋道を立てて考えたり、問題に取り組みせたりして定着を図る。そして、その考えを自分の言葉で表現する場面を増やし、説明する力の育成を図る。                                                                                                                                                         |
| データの活用 | ○平均正答率は、46.7%と市・県の平均をやや上回った。<br>●折れ線グラフと棒グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ問題では、市の平均を12.7ポイント下回った。複合グラフから傾向を読み取ることに課題が見られる。                                                                                                                         | ・算数だけでなく、理科や体育などでも、表から様々な情報を正確に読み取り、それをもとに分かったことや考えたことを言葉に表す学習を継続的かつ日常的に実施していくことで、基礎的な学力を生かして活用する力の定着を図る。<br>・ペア活動やグループ活動では、自分の考えに根拠をもって説明することができるよう、表やグラフを読み取るとき視点を示し、多角的な見方・考え方ができるようにする。<br>・数学的活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力の育成を図る。 |
|        |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                          |

宇都宮市立中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 17.5 | 46.0 | 44.3 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 54.3 | 57.7 | 56.6 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 53.3 | 67.8 | 66.9 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 60.3 | 67.2 | 64.6 |
| 観点  | 知識・技能          | 49.0 | 60.8 | 59.2 |
|     | 思考・判断・表現       | 55.3 | 62.1 | 60.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                         | 今後の指導の改善                                                                                                                         |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | ●エネルギーに関わる設問では、正答率が市や県の平均を下回った。<br>●簡易検流計を読み取る問題では、市の平均を17ポイント下回った。簡易検流計の使い方の理解に課題が見られる。                       | ・実験機器の正しい使い方や読み取り方と用語をおさえ、知識の定着を図る。<br>・実験器具や資料を教室などに設置し、児童が興味をもって触れられる機会を増やす。                                                   |
| 「粒子」を柱とする領域    | ○金属の温度と体積の変化の問題については、90.5%と正答率が高かった。<br>●あわの正体と考えた理由を答える問題では、市の平均を11.8ポイント下回った。実験の結果から考える問題に課題が見られる。           | ・学習したことへの理解はできているが、知識を応用することが苦手とみられる。キーワードを用いて説明する方法を指導していく。<br>・実験結果などを分析・考察する場面では、文章や図で表す学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。 |
| 「生命」を柱とする領域    | ○ヒョウタンののびを表したグラフを選ぶ問題では、正答率がやや高く、植物の成長と気温の関係についての知識が定着してきている。<br>●季節の順に並べたイチオウの記録を選ぶ問題では、市の正答率よりも14.5ポイント下回った。 | ・知識を自分たちの生活につなげる機会を持てるよう、観察の機会を増やす。<br>・基礎・基本的な用語をおさえ、知識の定着を図る。<br>・観察結果を考察する場面では、文章や図で表す学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。   |
| 「地球」を柱とする領域    | ○水の流れる向きを選ぶ問題では、正答率が90.5%と市の平均を7.1ポイント上回った。<br>●オリオン座の動きとならび方を選ぶ問題では、市の正答率よりも27.5ポイント下回った。                     | ・一人一台端末やプラネタリウム見学など、画像や動画で示すことで視覚的理解を促したり、実体験をもてる機会を増やしたりして、知識と経験の結びつきを深めていく。                                                    |

## 宇都宮市立中央小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強して『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の肯定回答率が91.7%で市の平均よりも6.3ポイント上回った。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定回答率が75%で市の平均よりも2.8ポイント上回った。調べることが好きで、疑問に思ったことがあると、インターネットや本を活用して解決することで、知識を得る喜びを知り、学習への意欲を高めていると考えられる。本校で取り組んでいる主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成に対する成果が表れたと考えられる。今後も、児童の学びを深めることのできる指導をしていきたい。

○「友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができていく」の肯定回答率が100%であった。また、「人と話すことは楽しい」の肯定回答率が100%と高く、人とのコミュニケーションをとることができている。今後も日常的に友達や教職員、地域の方々とも話す機会を設けていきたい。

●「家で、学校の授業の予習や復習をしている」の肯定回答率が市の平均よりも20ポイント近く下回った。家で復習するなど家庭学習が定着していないと考えられる。自主学習の内容を示したり、マイプランを使って家庭学習の計画を見直したりし、家庭と連携しながら家庭学習の定着を図る。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」の肯定回答率が市の平均よりも2.3ポイント下回った。人の話を聞くことは好きだが、自分の意見を表現することをやや苦手としていると考えられる。今後、授業の中でペア活動やグループ活動を意図的に取り入れ、自分の意見を相手に伝える場を設けていく。

## 宇都宮市立中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組               | 取組の具体的な内容                                                                                                 | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                           |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習意欲を高める課題設定の工夫      | 児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。                                                        | ・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童は、5年生が62.5%で、4年生が70.3%と市や県を下回っている。<br>・「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が5年生は75%で、4年生は92.6%で、市や県の肯定的回答を上回った。<br>・国語を中心に、引き続き課題設定の工夫に取り組んでいきたい。 |
| 考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫 | 対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。<br>また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。        | ・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答は、5年生95.9%、と市や県を上回っているが、4年生74%と市や県を3ポイント下回っている。                                                          |
| 基礎的な学習内容の定着のための取組    | 少人数指導や、朝の学習の時間、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。                                                               | ・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、5年生で71%、4年生で72.%で5年生では市や県の平均を下回り、4年生では市や県を上回った。算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、5年生で57.6%で市や県の平均を下回り、4年生で58.3%で、市や県の平均を上回った。                       |
| 家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫 | 全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。<br>また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。 | ・「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問の肯定的回答をした児童は5年生は66.7%、4年生は59.2%で、市や県の平均を下回った。<br>・家で予習や復習すると答えた児童は、いずれの学年も県や市を下回っている。<br>・家で毎日10分以上読書をするか答えた児童は、5年生、4年生ともに市や県の平均を大きく上回った。   |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                   | 重点的な取組  | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えている児童が4・5年生とも60%を超えている。<br>・国語の書く領域において、5年生は市や県をやや下回り、4年生は、市や県を15ポイント以上下回っている。 | 言語活動の充実 | ・話し合うために、自分の考えを持つための時間を十分に確保する。<br>・話し合いを通して深まった自分の考えを振り返り活動などで記録する。また、キーワードや穴埋め形式など個に応じた工夫を取り入れていく。<br>・教師が児童の学びをコーディネートしていく。<br>・自分の考えを文章にまとめられるようノート指導の充実を図る。 |